

Makiko Tomita Cello Solo Recital 2015

gut feeling! ~よし、これでいこう!

バロック時代のJ.S. バッハをその頃のスタイルのチェロで、
20世紀初めのコダーイを現代のスタイルのチェロで、
両方の楽器にガット(羊の腸)弦を張って演奏します。
音楽という言葉の抑揚や陰影、音色の豊かさを無限に表現できるガット弦。
木の楽器がもっと生きたものになり、人間が弾く意味がもっと深くなる…
近現代の、楽器と演奏技術の「発展」と「進歩」に貢献したエンドピンとスチール弦。
硬く、重い金属を取ってみたら、ずいぶん身体が楽になりました。
コダーイをガット弦で弾くのは今回が初めてです。
時を遡るのではなく、それぞれの作品が今、新しく生まれる。
「腑(=gut)に落ちる」音楽でありたいと思います。

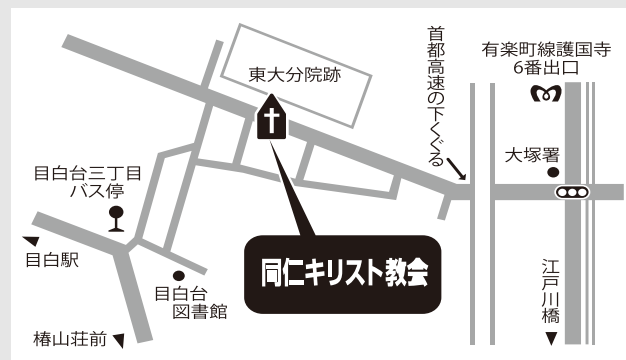


photo : Shinichi Kida

富田 牧子

東京芸術大学在学中にリサイタルを行い、室内楽奏者として活動を始める。弦楽四重奏にも熱心に取り組み、ヨーロッパ各地の音楽祭や講習会に参加。大学院修士課程修了後、ハンガリー・ブダペストに留学しバルトーク弦楽四重奏団チェロ奏者 L. メズー氏に師事。ソロリサイタルのほか、安保龍也(コントラバス)、塩谷牧子(ギター)、大村千秋(チェンバロ/フォルテピアノ)、ラースロー・メズー Jr. (チェロ)、コスマス・カピッツァ(パーカッション)の各氏との組み合わせによる「充実した内容の室内楽を間近で味わうコンサート」の企画・演奏を続けている。ガット弦を使用しピリオド奏法を学び、より深い音楽と楽器の理解を探索中。室内楽の楽しさを広める活動をライフワークとしている。

<http://tomitamakiko.seesaa.net/>



有楽町線「護国寺駅」6番出口より6分(急な上り坂です!)

目白駅より都バス「新宿駅西口」行き「目白台三丁目」3分

東京都文京区目白台3-10-9 [同仁美登里幼稚園となり]